

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第 1号を下記のとおり発表したの送付します。

平成 23年度病虫害発生予察特殊報第 1号

平成 23年 11月 10日  
岡 山 県

1. 病虫害名 イモグサレセンチュウ (*Ditylenchus destructor* Thorne)
2. 発生作物名 ニンニク
3. 発生確認場所 岡山県北部

4. 発生確認の経過

平成 23年 10月 18日、岡山県北部で貯蔵中のニンニク鱗茎に腐敗症状が発生し、診断依頼を受けた。生物顕微鏡で腐敗部を観察したところ、盤茎及び鱗片内部に多数のセンチュウが確認され、岡山県で未確認のイモグサレセンチュウと推定された。このため、腐敗鱗片をニンニクの寄生性センチュウに知見を有する地方独立行政法人青森県産業技術センター野菜研究所へ送付して診断を依頼したところ、イモグサレセンチュウであることが判明した。イモグサレセンチュウは昭和 59年 (1984年) に青森県で初めて確認され、その後、北海道 (地方独立行政法人北海道立総合研究機構ホームページ)、鳥取県 (平成 19年度病虫害発生予察特殊報第 1号) で発生が確認されている。本県においては本センチュウによる農作物被害の発生は初確認である。

なお、日本農業害虫大事典 (全国農村教育協会) によると国内では北海道、本州、九州、国外ではヨーロッパ、南アフリカ、バングラデシュ、ハワイ等に分布するとされている。

5. 形 態

成・幼虫とも体はほぼ透明で細長く糸状、成虫は長さ 0.8 ~ 1.4mm。側帯にある側線は 6本で口針は 10 ~ 14  $\mu$ m (図 3、4)。

6. 被害

- (1) 本センチュウに寄生した種球を植え付けた場合、鱗茎内部の幼芽や盤茎の腐敗により未萌芽や萌芽後の枯死を引き起こす。また、健全な種球であっても本センチュウの発生する圃場に植え付けた場合は、本センチュウの寄生によって生育初期に葉のねじれ等の奇形が発生し、枯死する場合もある。
- (2) 本センチュウの発生した圃場で生産されたニンニク鱗茎は、外見上健全であっても寄生を受けていることが多く、外観で寄生の有無を判別するのは難しい。本センチュウが寄生

した鱗茎は、保管中に腐敗が進行し、著しい腐敗臭がする。また、鱗片を縦割すると、盤茎及びその周辺の貯蔵葉が褐変、あるいはスポンジ状となり、本センチュウが多数寄生しているのが観察される（図1、2）。

## 7. 生態

- (1) 幼虫及び雌雄成虫が鱗茎に寄生して被害を与える。本センチュウの発生圃場にニンニクを植え付けた場合、2週間後には土壌中から種球に侵入し増殖を始め、収穫期には1つの鱗茎当たりのセンチュウ数は2～3万頭に達する。
- (2) 寄主植物は極めて多く、ニンニク、アイリス、ラッキョウ、バレイショでは明らかな被害が確認されている。また、ダイズ、ソラマメなどの豆類においても被害が発生する可能性があると考えられている。

## 8. 防除対策及び参考事項

- (1) 寄生が疑われる種球は使用せず、イモグサレセンチュウ未発生圃場で栽培する。
- (2) 発生圃場では、種球粉衣と土壌消毒の併用によって生育期間中の被害は軽減できるが、鱗茎への本センチュウの寄生を完全に防ぐことは困難である。
- (3) 発生圃場で使用した機械類は、センチュウ拡散防止のため、十分に洗浄する。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239)



図1 盤茎部から被害を受けた鱗片（矢印）



図2 被害を受けた貯蔵葉（矢印）



図3 イモグサレセンチュウ  
(バーは0.5mm)

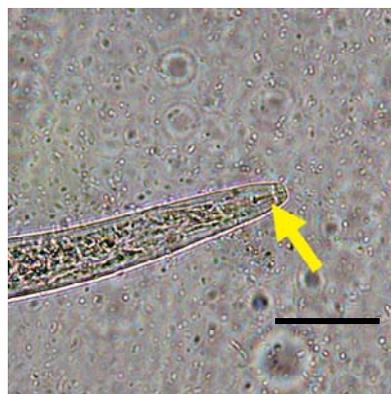


図4 イモグサレセンチュウの口針（矢印）  
(バーは30 μm)